

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000638
法人名	有限会社 木犀
事業所名	グループホーム遊友
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江1831-2 (電話)0983-26-1626
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 7月 30日

## 【情報提供票より】(21年7月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 9人	

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,700 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

## (4)利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	0名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 82歳	最低 69歳	最高 93歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	坂田病院 国立宮崎病院 いたう歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街地から少し離れた閑静な住宅地に、買い物など利便性の良い場所にある。和風平屋造りの建物に広々としたウッドデッキが設えられ、各々の居室からも自由に出入りが出来る。周囲の景色を眺めたりお茶を飲んだり、冬は日なたぼっこをして過ごされている。リビングには大きな大黒柱や、畳のスペース、ソファがあり、また季節の花がさりげなく飾られ利用者に思い思いにゆったりと過ごしてもらえるように配慮された施設である。『利用者の尊厳』を理念に掲げ、安全に安心してゆったりとした暮らしをしていただきたいと、質の高い介護サービスの提供に積極的に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である災害対策マニュアルの整備について検討している段階である。介護計画についても6か月に1回の見直しのままになっているので3か月に1回の見直しに改めて頂きたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長と職員は自己評価について話し合いを持ち、評価項目を各々分担して取り組んでいる。自己評価に取り組む中で職員はサービス改善の必要を見出すなど、スキルアップに繋がっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は町の担当職員、家族の代表、地区の公民館長や民生委員、事業所の職員などのメンバーで2か月に1回開催し、そこでの意見をもとにサービスの質向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情が寄せられた時は、ホーム長・職員で前向きに検討し、改善策を立て記録に残して家族に説明を行い運営に反映できるように努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の子供会を招いての餅つきや、敬老会などの地域の行事に利用者と職員は一緒に参加したり、民生委員やボランティアの受け入れなど、地域の人々と積極的に交流することに努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の個々の尊厳を守り、地域の中で安心と安全にゆったりと過ごしていただけるよう事業所独自に作りあげた理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長と職員は毎日のミーティングや職員会議の中で理念を共有し、毎日のケアの実践に活かされるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の子供会を招いての餅つきや、敬老会などの地域行事に利用者と職員は一緒に参加したり、民生委員やボランティア等の受け入れなど地域の人々との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するにあたりホーム長と職員はそれぞれに項目を分担し取り組んでいる。自己評価は職員のスキルアップに繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町の担当職員、家族代表、地区公民館長や民生委員、職員などのメンバーで2か月に1回開催しそこでの意見をサービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当職員にホーム側から相談を持ちかけて助言を貰っている。運営推進会議に出席して意見を貰うなど町の支援がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に出来るだけ声をかけてホームでの様子を報告している。遠方で面会に来られない家族には電話で状況を伝えている。利用者の金銭管理については預かりをしていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や、苦情が寄せられたときはホーム長・職員で前向きに検討し、改善策を立て記録に残し家族に説明を行いサービスの質向上に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は職員の異動が多く落ち着かなかったが、職員の内外の研修を行うことで近年は定着してきた。利用者に対する影響を考えて離職を最小限に抑える努力をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は職員全員が万遍なく事業所内外の研修を受ける機会を確保している。外部研修の場合研修報告書を作成し、ホーム内の伝達講習の場を設け働きながらトレーニングしていくことに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しスタッフの研修と交流が図られている。今年度は相互訪問等の活動を予定しサービスの質向上をさせていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と十分に話し合い相談の上で利用開始をしている。当事業所のデイサービスからの利用も多く馴染みの関係が出来てからの入居である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか利用者から料理の方法やコツを教してもらったり学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の今やこれまでのことを良く知っている家族などを交えて本人の視点に立って話し合い、ボランティアを導入し趣味活動として、のれん作りなど利用者の意向に添った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が本人らしく過ごせるように本人を良く知っている家族の意向を良く聞いて関係者で話し合い現状に即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月1回のモニタリングが実施されている。また、状態に変化が生じた時、その都度プラン変更がされているが計画の見直しが6か月に1回である。	○	介護計画は、毎月のモニタリングを活かして、月に1回の見直しにつなげてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医受診の付き添いや家族の泊まりの受け入れなど柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の等の意向を大切にこれまでのかかりつけ医との関係を築きながら、サマリーの提供をするなど適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの経験はあるが、終末期や看取りの方針について、事業所の協力医及び利用者のかかりつけ医との話し合いを充分に行い再度検討を予定している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけは目線を合わせてやさしく接している。利用者のプライバシーを損ねるような言葉や萎縮するような言動をしないケアの徹底を実践している。記録物については第三者の目に触れない場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活やペースを大切に、帰りたい願望があるときは家族に連絡を取ったり、ホーム長の家や関連施設の宅老所で気分が落ち着くまで過ごすなど希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じテーブルを囲みゆったりと会話しながら楽しく食事をしている。利用者のできる手伝いを依頼している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴支援をしている。入浴を拒否される利用者の場合無理強いせず良いタイミングで入ってもらえるように努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の主婦暦を活かした洗濯物たたみや、料理の材料の準備などの役割をさせていただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広々とした敷地の庭の散歩やウッドデッキでの外気浴は日常的に行えている。限られた人数であるが職員と一緒に買い物や同じグループの宅老所等へドライブに出かけたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム長、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており各居室、玄関は開放されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は1年に1回、避難訓練は2か月に1回、非常食の備蓄も行っている。今後、夜間想定避難訓練及び防災マニュアルも検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事や水分摂取量のチェックを行っている。また、むせこみのある場合など食事形態の工夫をしている。定期的な体重チェックについては車椅子の利用者が多いために病院受診時に計測している。		栄養のバランスや必要カロリーについては栄養士の専門的な観点から助言を受けるなど検討してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は採光や四方からの風通しも良く自然の風で十分に涼しく、利用者は畳のコーナーやソファに腰掛けゆったりと過ごしている。要所に季節の花がさりげなく飾られて居心地良く過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみの家具や好みの物が持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫している。		